是に二柱神　、議 云 つらく。今吾が生 之子不良。猶、天神之御所に白 べし

と宜たまいて、即 ち、共に參上 て、天神之命 を請たまいき。爾に、天神之命 、

布斗麻爾爾ト相以て、女 言先だちしによりて不良。亦、還り降 て改 めて言へ

と詔　ひき。

故、爾　反り降りまして、更に其天之御柱を先の如く、往廻りたまいき。是に

伊耶那岐命、先だちて阿那夜志愛袁登賣袁と言　い、後に、妹、伊耶那美命、

阿那夜志愛袁登古袁と言　いき。此言　い竟て、御合まして、

淡道之穂之狭別嶋を生みたまいき。次に、伊豫之二名嶋を生みたまう。此嶋は、

身一にして、面四あり、面毎に名あり。故、伊豫國を愛比賣、讃岐國を

飯依比古、粟國　を大宜都比賣、土左國を建依別という。次に隱伎之三子嶋を

に石土毘古神を生みたもう。次に石巣比賣神を生みたもう。次に大戸日別神を
う　つぎ　あめのふきおのかみ　う　つぎ　おおやびこのかみ　う　つぎ

生みたもう。次に天之吹男神を生みたもう。次に大屋毘古神を生みたもう。次
かざつわけのやしおのかみ　う　つぎ　わたのかみ　みな　おおわたつみのかみ　う

に風木津別之忍男神を生みたもう。次に海神 、名は大綿津見神を生みたもう。
つぎ　みなとのかみ　はやあきづひこのかみ　う　つぎ　いも　はやあきづひめのかみ　う

次に水戸神、速秋津日子神を生みたもう。次に妹、速秋津比賣神を生みたもう。
このはやあきづひこのかみ　はやあきづひめのかみ　ふたはしらのかみ　かわうみ　もちわけ　う

此速秋津日子神、速秋津比賣神の二神 、河海によりて、持別て、生みませ
かみのみな　あわなぎのかみ　つぎ　あわなみのかみ　つぎ　つらなぎのかみ　つぎ　つらなみのかみ　つぎ

る神名 は、沫那藝神、次に沫那美神。次に頬那藝神、次に頬那美神。次に
あめのみくまりのかみ　つぎ　くにのみくまりのかみ　つぎ　あめのくひざもちのかみ　つぎ

天之水分神。次に國之水分神。次に天之久比奢母智神。次に
くにのくひざもちのかみ

國之久比奢母智神。
つぎ　う　かぜのかみ　みな　しなつひこのかみ　つぎ　う　きのかみ　みな

次に生みたもう風神 の名は、志那都比古神。次に生みたもう木神の名は、
くくのちのかみ　つぎ　う　やまのかみ　みな　おおやまつみのかみ　つぎ　う　ぬのかみ

久久能智神。次に生みたもう山神 の名は、大山津見神。次に生みたもう野神の
みな　かやぬひめのかみ　またのみな　ぬづちのかみ

名は、鹿屋野比賣神。亦名 を野椎神。
この　おおやまつみのかみ　ぬづちのかみ　ふたはしらのかみ　やまぬ　もちわけ　う　かみのみな

此、大山津見神、野椎神の二神 、山野によりて、持別て、生みたもう神名
あめのさづちのかみ　つぎ　くにのさづちのかみ　つぎ　あめのさぎりのかみ　つぎ　くにのさぎりのかみ　つぎ

は、天之狹土神、次に國之狹土神、次に天之狹霧神、次に國之狹霧神、次に
あめのくらどのかみ　つぎ　くにのくらどのかみ　つぎ　おおとまとひこのかみ　つぎ　おおとまとひめのかみ

天之闇戸神、次に國之闇戸神、次に大戸惑子神、次に大戸惑女神。
つぎ　う　かみのみな　とりのいわくすぶねのかみ　またのみな　あめのとりぶね　つぎ

次に生みたもう神名 は、鳥之石楠船神。亦名 を天鳥船 。次に、
おおげつひめのかみ　つぎ　ひのやぎはやおのかみ　またのみな　ひのかがびこのかみ　またのみな

大宜都比賣神。次に、火之夜藝速男神。亦名 を火之火玄毘古神。亦名 を
ひのかぐつちのかみ　このみこ　う　みほと　やかえ　やみこやせり　たぐりに

火之迦具土神。此子を生みたもうによりて、美蕃登、見炙て、病臥在。多具理邇
う　かみのみな　かなやまびこのかみ　つぎ　かなやまひめのかみ　つぎ　くそ　なり　かみのみな

に、生みませる神名 は、金山毘古神。次に金山毘賣神。次に屎に成ませる神名
はにやすびこのかみ　つぎ　はにやすびめのかみ　つぎ　ゆまり　な　かみのみな

は、波爾夜須毘古神。次に波爾夜須毘賣神。次に尿 に成りませる神名 は、
みつはのめのかみ　つぎ　わくむすびのかみ　このかみ　みこ　とようけびめのかみ　かれ

彌都波能賣神。次に和久産巣日神。此神の子は、豊宇氣毘賣神という。故、
いざなみのかみ　ひのかみ　う　ついかむさりま　すべていさなぎ

次に生みたもう風神 の名は、志那都比古神。次に生みたもう木神の名は、
くくのちのかみ　つぎ　う　やまのかみ　みな　おおやまつみのかみ　つぎ　う　ぬのかみ

伊耶那美神、火神を生みませるによりて、遂に神避坐しき。凡 伊耶那岐、
いざなみ　ふたはしらのかみ　とも　うみませるしま　とおまりよしま　とも　うみませるかみ　みそじまりいつはしら

伊耶那美の二神 、共に所生 嶋は、壹拾肆嶋。共に所生 神は、參拾伍 神。
こ　いざなみのかみ　さきにうみましつ　たぐ　おのごろしま　うみませるならず　また　ひるこ

是は、伊耶那美神、前 所生 。唯、意能碁呂嶋のみは、非所生 。亦、姪子と
あわしま　みこ　かず　い

淡嶋は、子の例に入れず。

かれ　ここ　いざなぎのみこと　のりたまいく　いと　あ　なにものみこと　や　このひとつけ　かえつるかな
故、爾に、伊耶那岐命、詔之 。愛しき我が那邇妹命乎。子之一木に易 乎と。
みまくらべ　はらば　みあとべ　はらば　なきたまうとき　みなみだ　なりませるかみ
御枕方に匐 い、御足方に匐 いて、哭時 に、御涙に成神 は、
かぐやまのうねおのこのもと　ま　みな　なきさわめのかみ　かれ　そのかむさり　いざなみのかみ
香山之畝尾木本に坐す。名は、泣澤女神。故、其神避ましし伊耶那美神は、
いずものくに　ほうきのくに　さかい　ひばのやま　かくし
出雲國と伯伎國の堺 、比婆之山に葬 まつりき。
ここ　いざなぎのみこと　みはかせ　とつかのつるぎ　ぬき　そのみこ　かぐつちのかみ　みくび　きり
是に伊耶那岐命、御佩るところの十拳劒 を抜て、其子、迦具土神の頸 を斬たま
ここ　そのみはかしのさき　つけ　ち　ゆつ　いわむら　たばしりつ　な　かみのみな
う。爾に、其御刀前 に著る血、湯津石村に走就 きて、成りませる神名 は、
いわさくのかみ　つぎ　ねさくのかみ　つぎ　いわづつのおのかみ　つぎ　みはかしのもと　つけ　ち　ゆつ
石拆神 。次に根拆神。次に石筒之男神。次に御刀本 に著る血もまた、湯津
いわむら　たばしりつ　な　かみのみな　みかはやひのかみ　つぎ　ひはやひのかみ　つぎ
石村に走就 きて成りませる神名 は、甕速日神、次に樋速日神、次に
たけみかづちのおのかみ　またのみな　たけふつのかみ　またのみな　とよふつのかみ　つぎ　みはかし　たかみ　あつ
建御雷之男神。亦名 を建布都神。亦名 を豊布都神。次に御刀之手上に集まる
ち　たなまた　くきで　な　かみのみな　くらおかみのかみ　つぎ　くらみつはのかみ　かみのくだり
血の手俣より漏出て成りませる神名 は、闇淤加美神、次に闇御津羽神。上件 、
いわさくのかみ　くらみつはのかみ　あわ　やばしらのかみ　みはかし　より　なりませるかみ　なり
石拆神 より闇御津羽神まで、并せて八神 は、御刀に因て、所生之神也。